

新田の

歴史と遺産

大東市
史跡指定記念
改訂版

平野屋新田会所跡周辺の
水路・樋門・石造物

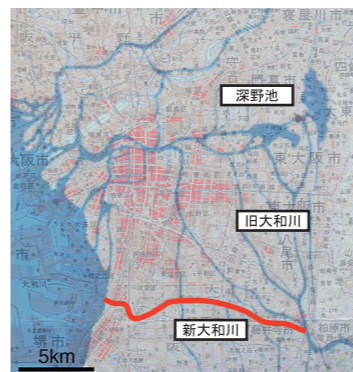
案内 マップ



平野屋新田会所市民サポーター会議



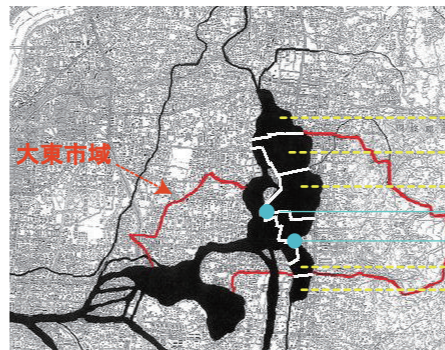
大和川付け替えと新田開発



大和川付け替え工事概略図
*松田順一郎氏が作成した地図に
平野屋新田会所市民サポーター会議が加筆

三百年前、大東市の新たな基礎が作られた

大東市域の平野部には、江戸時代前期まで深野池が広がっていました。宝永元年（1704）に大和川の付け替えが行われると、深野池の跡地は約 300 ヘクタールの広大な新田に生まれかわり、その後の大東市域の発展の基礎となりました。



深野池跡に出来た五新田

新田の所有者の変遷

深野池跡の開発権は東本願寺難波御堂が取得し、後に河内屋北・深野北・深野（中）・深野南・河内屋南新田の 5 新田に分けられました。深野南・河内屋南新田は、享保 6 年（1721）に大坂の両替商・平野屋又右衛門の所有となり、その後、延享 2 年（1745）に助松屋忠兵衛へ、享和 3 年（1803）に天王寺屋八重へ、文政 7 年（1824）に銭屋（高松）長左衛門へ譲渡されました。



上：表長屋門
下：千石蔵

平野屋新田会所

平野屋新田会所は、深野南新田と河内屋南新田の管理・運営のために設けられた施設でした。会所には、大坂市中に居住する所有者に代わって支配人が置かれ、年貢の集積や住民の管理、武家の接待等に使われました。東西約 120m、南北約 60mの屋敷地には、主屋棟・座敷棟・表長屋門・裏長屋門・屋敷蔵・千石蔵（米蔵）・道具蔵の建物がありました。東側には庭園と屋敷神である坐摩神社が立地し、西側には銭屋川に面する船着場があり、残り三方は濠で囲まれていました。



千石蔵跡礎石



船着場跡
（現在：地中保存）

大東市指定史跡 平野屋新田会所 千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡

平野屋新田会所は宅地開発のため平成 20 年（2008）に解体されました。その後、旧千石蔵・道具蔵の基礎と船着場の階段の遺構が残る屋敷地の北西部 476 m²を大東市が公有化し、平成 31 年（2019）に大東市指定史跡となりました。深野池の新田開発の歴史を伝える貴重な遺跡として、保存と活用に向けた検討が進められています。



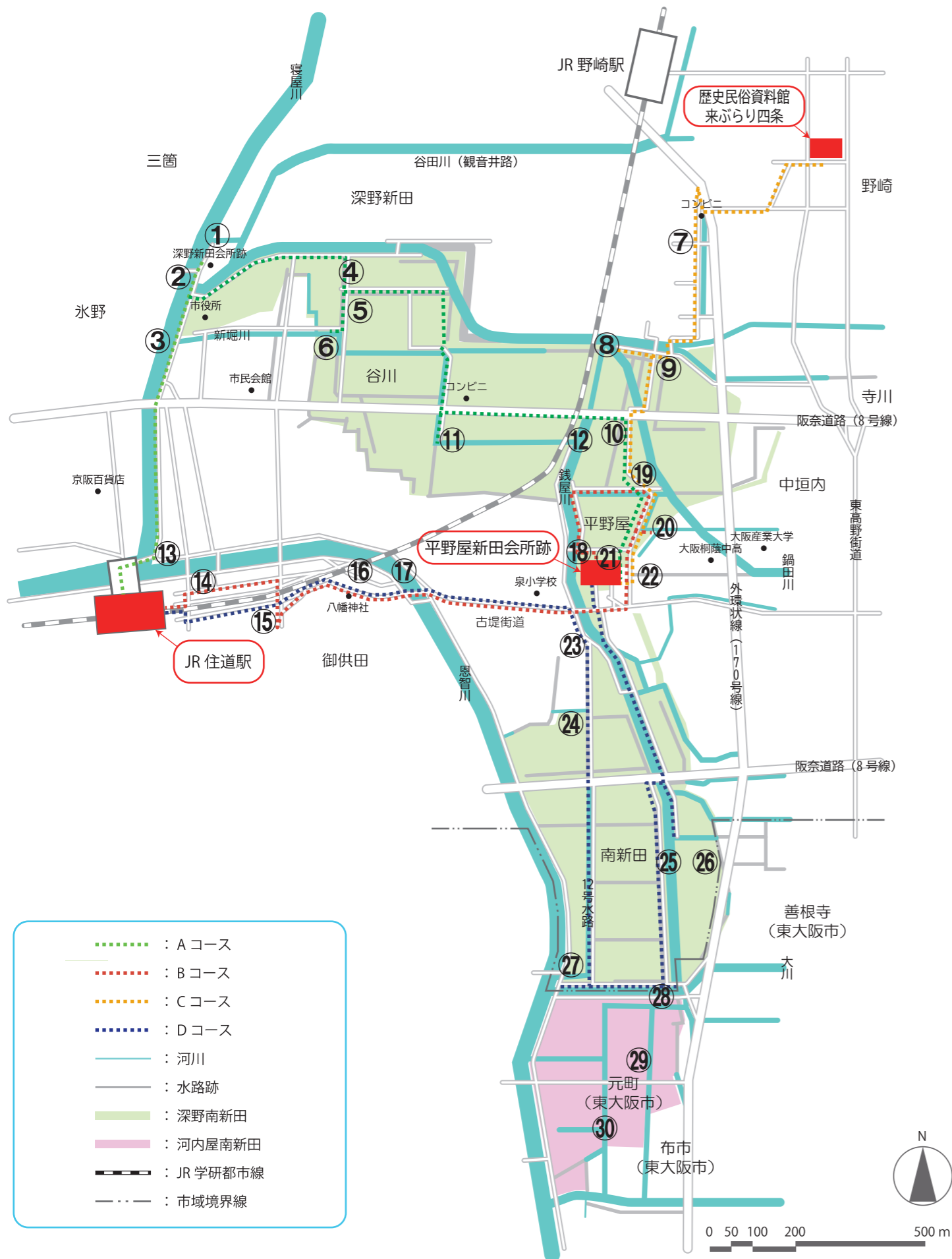
道具蔵跡



道具蔵収納踏車（現在：大東市立歴史民俗資料館保管）



千石蔵基礎



Aコース 新田関連三神社と二つの会所を巡る



かみなり樋門

新田開発に関する三つの神社と樋門や水路を見ながら二つの新田会所跡を訪ね、深野南新田北部を巡るコース。

- JR 住道駅
- 100m
- ⑬ 住吉神社
- 1000m
- ① 両皇大神社
- 550m
- ⑥ 谷川1丁目樋門
- 150m
- ⑤ 公民館前樋門笠石
- 600m
- ⑪ かみなり樋門
- 900m
- ⑳ 坐摩神社
- 100m
- 平野屋新田会所跡

Bコース 旧大和川を通り会所跡周辺を巡る



平野屋新田会所跡

野崎観音詣や宝山寺詣の中継地・住道から古堤街道をたどり、旧吉田川跡と恩智川改修跡を見て、農民感謝碑から会所跡に至るコース。

- JR 住道駅
- 200m
- ⑭ 「古堤街道」道標
- 250m
- ⑮ 旧吉田川跡
- 150m
- ⑯ 旧恩智川跡
- 1100m
- ㉑ 「又」の境界石
- 100m
- ⑲ どんばの伏越樋
- 250m
- ⑱ 農民感謝碑
- 350m
- 平野屋新田会所跡

Cコース 深野池東堤跡を通り水の歴史を探る



どんばの伏越樋

深野池東堤跡と「ままたこだ」を通り、会所に至るコース。
(歴史民俗資料館に四会所スタンプラリーの朱印があります)

- 歴史民俗資料館
- 550m
- ⑦ 深野池東堤跡
- 400m
- ⑨ 北ままたこだ
- 200m
- ⑧ ニツ橋跡
- 150m
- ⑩ 旧鍋田川跡
- 100m
- ⑲ どんばの伏越樋
- 150m
- ㉒ 中垣内浜跡
- 150m
- 平野屋新田会所跡

Dコース 深野南新田南部の水路と樋門を巡る



せせらぎふれあいの径 (12号水路)

住道駅構内の深野池想像図を見て出発し、12号水路や樋門を巡るコース。

- JR 住道駅
- 800m
- ⑰ 野通り橋跡
- 500m
- ㉓ 三反物の樋
- 100m
- ⑳ 待樋
- 650m
- ㉔ 満島用水樋
- 250m
- ㉕ 落合橋下伏越樋
- 700m
- ㉖ 銭屋川
- 750m
- 平野屋新田会所跡



① 両皇大神社

深野新田会所の屋敷があった場所で、現在は跡地の一部が「両皇大神社」境内地になっています。



② 谷川ニツ樋跡

寝屋川からの逆流を止め、深野・深野南新田側の水を寝屋川に落とす樋がありました。



③ 寝屋川表新樋跡

深野南新田の水不足を補うため、開発後しばらくして新設されました。現在はポンプ場になっています。



④ 「みくにこはし」欄干石

谷川地区の水路の樋に架かっていたと思われる橋の欄干石（大正4年銘）が残されています。



⑤ 谷川公民館前樋門笠石

もとは⑥の樋門 近くにあったが昭和53年(1978)に撤去され、現在地に笠石が保存されています。



⑥ 谷川1丁目樋門

寝屋川表新樋から東に流れる新堀川筋にある樋門。東西の流れを調節していました。



⑦ 深野池東堤跡

現在でも堤道の西側（画面右）が2m程低くなっており、深野池の東端の姿が感じられる所です。



⑧ ニツ橋跡

深野南新田と深野新田及び寺川村とを結ぶ二つの橋がありました。



⑨ 「北ままこだ」と切れ所

川の南側が一段低くなっており、大雨であふれた水を引き込ませ遊水池にしていました。



⑩ 旧鍋田川跡

鍋田川が昭和40年頃付け替えられ川跡は現在のように道路になっています。



⑪ かみなり樋門

この場所は、もともとため池的性格があったとも考えられています。



⑫ けんと樋跡

深野南新田北西部（現谷川地区周辺）の浸水を守るため真っ先に閉じられたと伝えられています。



⑬ 住吉神社

大阪と河内北部を結ぶ水運の要所として栄えた住道の歴史を伝える社です。



⑭ 「古堤街道」道標

古堤街道は大阪と奈良を結びます。この道標は明治35年に立てられました。枚方と八尾を結ぶ河内街道との交差点にあります。



⑮ 旧吉田川

この付近で、大和川の支流の一つ「吉田川」が深野池に流れ込んでいました。



⑯ 旧恩智川跡

昭和52年に洪水を防ぐ為に、付け替えられた恩智川の跡地は雨水貯留施設として活用されています。



⑰ 野通い橋跡

新田開発当初、深野南新田と御供田村とを結んだ橋が御供田新橋歩道橋のあたりにありました。



⑱ 農民感謝碑

明治18年と22年の大水害時、地主高松氏や支配人による救済活動に対し、農民が感謝の意を綴った石碑です。



⑲ どんばの伏越樋

旧鍋田川の下を立体交差していた樋門です。



⑳ 「又」の境界石

「又」の字が刻まれており、最初の地主平野屋又右衛門の時、境界石として設置されたと考えられています。



㉑ 坐摩神社

平野屋又右衛門が大坂の坐摩神社から勧請して屋敷神とされ、現在は新田3地区の鎮守となっています。



㉒ 中垣内浜跡

この付近には鍋田川が流れ込んでいました。現在は公園になっています。



㉓ 三反物の樋

銭屋川と12号水路が合流する地点にある樋門です。現在は、シートで覆われています。



㉔ 待樋

深野南新田を南北に貫く12号水路にある水位調整の水門。現在のものは昭和30年代に改修されたものと考えられます。



㉕ 銭屋川

古くは「落合橋下伏越樋」から「三反物の樋」までを「六間井路」と呼んでいました。船着き場があり舟の行き交う水路でした。



㉖ 東回り井路

善根寺村と深野南新田の境界井路で、一部が外環状線沿いに暗渠に残っています。



㉗ 満島用水樋

深野南新田の立会樋でしたが、やがて深野南新田だけの使用となり、恩智川の水質汚染により昭和33年に取水が中止されました。



㉘ 落合橋下伏越樋

河内屋南新田から深野南新田に用水を取り入れるために大川の下を立体交差していた樋門。現在は笠石部分が残されています。



㉙ 河内屋南新田

当初、河内屋南新田は河内屋源七所有でしたが、のちに平野屋又右衛門の手に渡り深野南新田と一体的に経営されました。



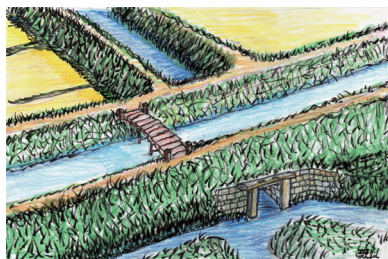
㉚ 河内屋南新田樋門笠石

現在地にあったのかは不明ですが、江戸時代の絵図や文書によると、この付近に数カ所の樋があったことが記されています。

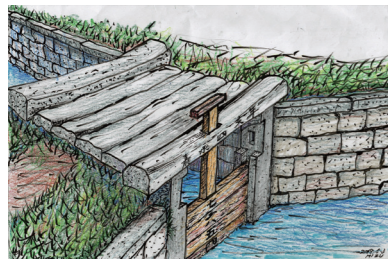
新田をまもる仕組み



大阪府北河内郡四條村深野南水路略図 (平野屋自治会蔵「五カ所文書」)



「落合橋下伏越樋」イメージ図



「かみなり樋門」イメージ図

深野南新田・河内屋南新田の水路（井路）と用水確保

新田開発時、新田と周辺の村々との約束で、山側からの川の水は、恩智川と寝屋川に流すことになりました。深野南新田と河内屋南新田は、主に恩智川と寝屋川や山側の村の余り水を用水にしました。

恩智川から取り入れた水は四間井路（12号水路）で北に流しました。また、寝屋川からは寝屋川表新樋で用水を取り入れました。

「永代堀」と「ままこだ」

安定的な用排水のため、毎年5月に井路の堀^{さら}え（永代堀）を行っていました。昭和初期頃の絵図には洪水による「切れ所」と「ままこだ」と呼ばれる遊水池になった場所が描かれています。

今も残る水路要所の石造樋門

樋には、「落合橋下伏越樋」のように川の下を水路が立体交差する仕組みの樋門もありました。「かみなり樋門」のように、洪水から下流域を守るため「大雨で雷が落ちる中でも命がけで樋門を閉じに向かった」とされる重要な役目をもった樋が残っています。

樋門一覧表

名称	場所	刻	西暦	マップ・写真番号
三反物の樋	平野屋 1丁目	弘化二巳年	1845	㉓
満島用水樋	南新田 1丁目	弘化五申年	1848	㉗
かみなり樋門	深野南町	嘉永四亥年	1851	㉑
谷川公民館前樋門笠石	谷川 1丁目	嘉永四亥年	1851	㉕
谷川 1丁目の樋門	谷川 1丁目	安政六未年四月	1859	㉖
落合橋下伏越樋	東大阪市 元町 2丁目	安政三丙辰 三月	1856	㉘
どんばの伏越樋	平野屋 1丁目	—	不詳	㉙

祭りに残る新田のくらし

深野南・河内屋南新田の鎮守であった坐摩神社は、現在も谷川、平野屋、南新田・元町（東大阪市）によって守られ、だんじりの宮入が続けられています。

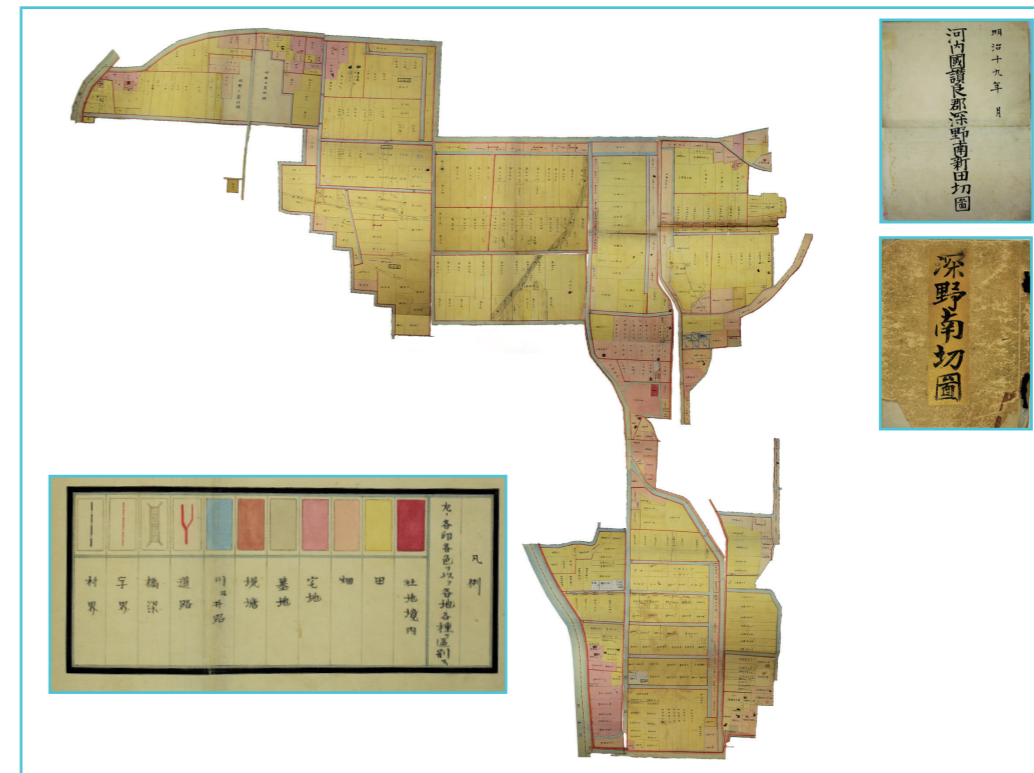


神社境内に揃う三基のだんじり

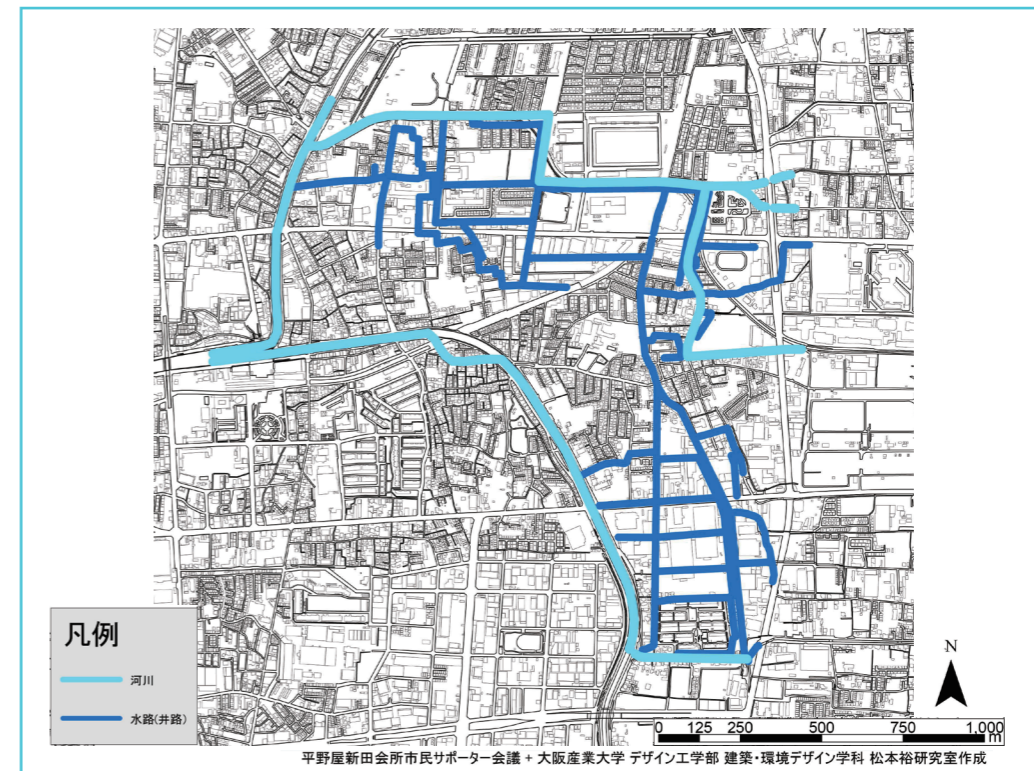


坐摩神社に奉納された古い絵馬「地車・宮入の図」[146.5cm×57cm] (平野屋自治会蔵)

平野屋新田会所関連水路図



河内國讃良郡深野南新田切圖 (明治19年) 大東市蔵



河内國讃良郡深野南新田切圖 (明治19/1886年) の水路情報を 国土地理院数値地図 (平成29/2017年) の地図に重ね合わせたもの

発行日 : 平成31(2019)年 3月20日 初版発行
 令和 2(2020)年12月20日 改訂版発行
 編集・企画 : 平野屋新田会所市民サポーター会議
 大阪産業大学 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 松本裕研究室
 事務局 : 大東市教育委員会生涯学習課 電話 072-870-9105
 協力 : 大東市立歴史民俗資料館、谷川自治会、平野屋自治会、南新田自治会
 写真提供 : 大東市教育委員会、大東市立歴史民俗資料館
 デザイン : 松本裕 表紙意図 : 豊かな水路に縁どられた新田とそこで育まれる緑の稲田のイメージ
 表紙絵図 : 新田開発後の水路想像図 (平野屋新田会所市民サポーター会議作成)